

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
教育支援スタッフ



チュウホク ドット コム

TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3013

中北の地域社会 (COM munity)の心の交流 (COM munication)をめざします

「やさしい笑顔から」

中北教育事務所 所長 越水 久也

山々の新緑も色濃く、さわやかな風を心地よく感じる季節となりました。皆様方におかれましては、日頃より中北教育事務所の地域教育業務にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和6年度を迎えておおよそ1ヶ月が過ぎました。ドキドキワクワクしながら進学や進級した子どもたちも学校生活にも慣れてきたところでしょうか。子どもも教師も保護者・地域の方々も笑顔があふれる学校になりますことをあらためてご祈念申し上げます。

令和5年度末人事異動により中北教育事務所では、9名が転出し、9名の転入がありました。新たなメンバーを迎え、教育支援スタッフ(地域教育・学校教育)、総務担当に、非常勤職員のスクールソーシャルワーカー、アドバンスティーチャーを含め、総勢26名体制で業務を進めます。中北地区における教育行政の拠点として、また、山梨県教育委員会の出先機関として、管内各市町教育委員会や各小・中学校並びに関係諸機関との連携を図りつつ、職員一丸となって地域に開かれた教育行政の推進に努めてまいります。

さて、本年度より新たな教育振興計画が施行されました。策定の趣旨として「生成AIやビッグデータ、IoTといった先端技術の高度化、人口減少と高齢化の進展、気候変動などの地球環境問題、グローバル化の進展等、社会情勢も大きく変動している。また、家庭環境や地域社会の変化、子供が抱える困難が複雑化・多様化するといった教育に関わる変化も大きくなっている。このように先行きが不透明で将来の予測が困難な時代において未来を活力あふれるものにするためには、持続可能で多様性と包摂性のある社会を築き維持・発展させる必要がある。そのためには、本県の強みである学校や地域でのつながりや利他性、自己有用感など、調和と協調に基づいた一人一人のウェルビーイングの向上を教育を通じて図っていくことが重要となる。」とあります。

この「ウェルビーイング」という言葉を実はよくわかっていなかったため、改めて調べてみました。何でも頼るのはよくないということはわかっているのですが、一番有名な生成AIに相談いたしました。「ウェルビーイング」という言葉は1946年にWHO(世界保健機関)憲章で定義されたということです。当初は「健康」という側面に重きが置かれていたようですが、現代においては、コロナ禍を経て、身体的、精神的に健康な状態であるだけでなく、社会的、経済的にも良好で満たされている状態を指すという言葉として用いられています。学校現場でいうウェルビーイングの向上というのは、児童生徒はもちろん教職員も含め皆が、身体的・精神的・社会的に良好な状態であり、さらに保護者、地域の方々へもその状態が広がっていくことが求められているということです。

このウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好)という言葉は、やさしく考えると「誰もが笑顔でいられること」と解釈してもよいかと考えました。「やさしい笑顔は、思いやりの世界共通の言語」というワードの言葉にもありますが、「子どもたちの笑顔」「教職員の笑顔」あふれる学校は「保護者・地域の方々の笑顔」を引き出してくれることでしょうか。やさしい笑顔あふれる学校・地域社会を目指し、皆様方と共に手を携えて参りたいと思います。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



“非日常”の演出

令和5年度 甲斐市公民館合同子どもふれあい講座

「私たちはみんな宇宙の子です」——高橋真理子さんの素敵なナレーションが心に響きます。この台詞は、7mのドームプラネタリウムで語られたもので、「一つの爆発で宇宙が誕生したとすると、すべてのものが元は一つ、皆つながっている」という意味が込められています。

3月3日、双葉公民館において甲斐市公民館合同子どもふれあい講座「キャリングプラネタリウム～宇宙お届け便～」が開催されました。申し込み数は定員の倍にもなったそうです。当日は、幸運にも選ばれた親子50組が、ドームプラネタリウム体験をしたり、地球ゴマ・ポップアップカードを作ったりしました。講師として招かれたのは、「一般社団法人星つむぎの村」（代表理事：跡部浩一、高橋真理子）の皆さんです。講師の皆さんの熱心な指導のもと、参加した親子たちは充実したひとときを過ごしました。

実は、このイベントは、甲斐市にある5つの公民館（竜王北部公民館・竜王中部公園セミナーハウス・竜王南部公民館・敷島公民館・双葉公民館）が合同で主催しているというところに特徴があります。なぜこのように合同での企画が実施されているのでしょうか。その背景や合同企画への思いについて、担当者は次のように語ってくれました。「普段は、各公民館が独自に活動していますが、それぞれ予算が限られているため、合同で実施し、力を合わせ、大きなイベントを多くの市民に届けたいのです。」

今回のイベントのほかにも、甲斐市公民館では多種多様な企画を実施しています。前出の担当者は、「きっかけづくりの提供を意識しています。子どもから大人まで多くの市民が、イベントを通じて地域の活動に参加するようになり、甲斐市が盛り上がっていくことが願いです。」とも述べていました。「非日常」体験は、「日常」に豊かな彩りを与えてくれます。甲斐市公民館活動における「非日常の演出」は、必ずや地域の活性化につながっていくでしょう。



令和5年度 韮崎高校探究交流会（NTS）開催

3月18日、山梨県立韮崎高等学校（野崎哲司校長）において、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）生徒を含めた1、2年生のグループ課題研究の発表の場として、「第12回韮崎高校探究交流会」が開催されました。

まず、SSH代表生徒から「紙の挙動について」と「野菜と果物の糖度の変化」を演題として、それぞれ口頭発表がありました。発表者は、参加者に理解してもらうために、限られた時間の中で適切な話し方、説明を心がけ、正確に伝えるように報告していました。参加者からは、細かな実験の条件を確認する質問やアドバイスが出され、この場が単なる発表会でなく「学びを追究する空間」であることが伝わってきました。

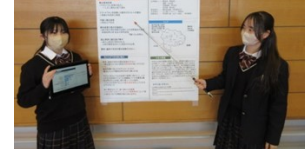
その後、教室と体育館において、全部で45のポスター発表がありました。会場には、研究内容がまとめられたポスターが張り出されています。参加者は、興味のあるポスターのところに赴き、発表者から説明を受けていました。研究はこの交流会で終わりではなく、同じテーマで3年生の夏まで続くということです。「考察」について説明する場面で、現状での課題、まだ明らかになっていないことなどについても発表者が真摯に振り返っていたところに、今後の研究への期待が膨らみま



災害時に自然から得た水を安全に飲む方法



山梨県の観光の活性化



山梨県のマイクロプラスチック問題について

ホールに本当に花が咲いた

ことぶき勸学院 異世代交流にて

♪花～は は～なは 花は咲く～ いつ～か～生まれる君に 花～は は～なは
花は咲く～ わた～しは何を残しただろう♪

4月19日、YCC県民文化ホール小ホールに歌声が響きわたりました。歌声の主は、甲府第一高校ア・カペラ部の皆さんと今年度の入学式・始業式を終えた「ことぶき勸学院」の学生の皆さん（以下「学院生」と記します）です。新型コロナウイルス感染症の影響で取りやめとなっていた異世代交流ですが、今年度、晴れて復活を遂げました。記念すべき復活の舞台に立ったのは甲府第一高校ア・カペラ部です。ステージは、曲と曲の間に高校生らしい



歌詞を見ながら歌う学院生

率直な語りを挟みつつ、メドレー形式で進んでいきました。そして、異世代交流ステージ、プログラムの最後を飾ったのが冒頭の「花は咲く」（作詞：岩井俊二、作曲：菅野ようこ）でした。実は、「花は咲く」の歌詞は事前に受付で配られており、舞台からの高校生の呼びかけで観客席に座る学院生もともに歌うこととなりました。高校生の歌声に学院生の歌声が優しく重なり、そこに本当に花々が咲くのが見えるようだった…とでもいったらよいでしょうか、なんともいえない温かな雰囲気ホールに満ちていきました。異世代間の交流はもちろん、人と人のつながりがとても大切なものであること、そして、そのつながりこそが種となってこの世に色とりどりの花を咲かせていくのだということ…合唱を聴きながらそんなことをしみじみと感じました。高校生と学院生の姿に、これから目指すべき社会の在り方を見たような気もしました。



全日程が終了し、外に出ると、すでに太陽が西に傾き始め、辺りは一面黄色い柔らかな光に包まれていました。ホールに響いた歌声に温かくなった心を映すかのような光景でした。すばらしいスタートを切った学院生たちの学びが実り多きものとなるよう切に願います。

「文化的景観」という見方

ことぶき勸学院

中北教室 2年生 第1回講座より

5月7日、ことぶき勸学院2年生の第1回講座が開かれました。4月23日2年生開講式、4月26日1年生開講式を経ての今年度最初の講義です。講師は山梨大学の菊池淑人先生、講義タイトルは「フィールドワークの基礎知識～地域の歴史文化（記憶）の再発見とその表現～」でした。

講義の中で最も印象に残ったのは、勝沼地域を例に取り上げ、勝沼一帯のぶどう畑およびワイナリー群、観光ぶどう園群を含む景観が全国的に見ていかに特異なものであるかについて触れた部分でした。「特異性」の背後にはきちんとした理由があります。菊池先生の説明によれば、自然環境をはじめ、その他の種々の要素が絶妙に絡みあい、「勝沼」という日本一のぶどう郷が成立しているとのことでした。「勝沼」の景観が自然環境的に見ても、文化的・歴史的に見ても奥行きがあり、また独自性のあるものであることを知ることは、今のこの現在において「勝沼」のぶどう畑を美しいと思うのとはまた別の感慨をもたらします。つまり、「勝沼」という文化的景観の背景を知ることは、地域をストーリー性のあるかけがえのないもの



朝の会の様子

としてとらえることを可能にし、地域を誇らしく思う気持ちへとつながってゆくのだということです。

興味深い話の連続で半日の講義があっという間でした。菊池先生の示唆に富んだ話によって、私たちの地域を見る目は確実に変わったはずです。



令和6年度 中北教育事務所 地域教育連携事業について

1 第1回中北地区地域教育推進連絡協議会

- ① 日時 令和6年6月27日(木) 14:10~16:30
- ② 場所 甲斐市敷島総合文化会館大ホール
- ③ 協議会 ※役員と事業計画の確認は、5月中に紙上提案の形で行う。
- ④ 研修会 演題 「子どもの発達を支援する」ー愛着形成と脳の多様性を理解するー
(人権教育研修の内容を含む。約90分)
講師 山梨県子どもまごころサポートプラザセンター長
山梨大学名誉教授 相原 正男 氏

2 中北地区地域教育フォーラム

- ① 日時 令和6年10月17日(木) 13:30~16:30
- ② 場所 甲斐市双葉ふれあい文化館ホール
- ③ 地域の文化発表 中北地域の高校生の文化発表(約20分) 葦崎高校 箏曲部
- ④ 研修会 テーマ「自立した学び手を育てる」
講演 演題 「地域の子どもたちを健やかに育てるために」(仮)(約90分)
講師 山梨大学学長 中村 和彦 氏

3 第2回中北地区地域教育推進連絡協議会

- ① 日時 令和7年1月23日(木) 14:10~16:30
- ② 場所 甲斐市敷島総合文化会館大ホール
- ③ 地域団体の活動実践発表 「白根高校と南アルプス市の包括連携協定における、
1年生総合的な探究の時間での地域の魅力調査活動」
- ④ 研修会 演題 「自分と周りの自発的なモチベーションを引き出してみんなハッピーに」(仮)
講師 山梨英和大学教授 佐柳 信男 氏

◆「中北地区 子育て相談窓口・教育相談窓口 案内」冊子を、保育所・幼稚園、小中高及び特別支援の各学校、市町の子育て担当各所に配付しています。当教育事務所のホームページでもご覧いただけます。

◆「中北地区異校種間授業参観『公開できる授業等一覧』」を6月配付予定です。

～紙面を飾ってみませんか～

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。問い合わせは下記まで、お気軽にお声がけください。

令和6年度 『中北.com』 No. 1

編集・発行 中北教育事務所

担当 内藤 賢・望月 亜由

〒407-0024 葦崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046 FAX 0551-23-3013

